

3、回答者のプロフィール

ここでは、以下の章の分析結果を見る前に、今回の回答者がどのようなプロフィールを持つ人たちであるか知るため、性別、職種、年齢等の基本属性についてまとめている。

性別

Q17では回答者の性別を聞いている。その結果、図1のように男性が52.4%（929人）、女性が47.6%（844人）とほぼ半数ずつという結果になった。昨年度調査では、女性が57.4%（710人）、男性が42.6%（527人）と女性が多かったが、今回の調査では、大学院生に男性が多いため、若干男性が多くなったのだろう。性別に関して無回答の人も多く、89人いた。

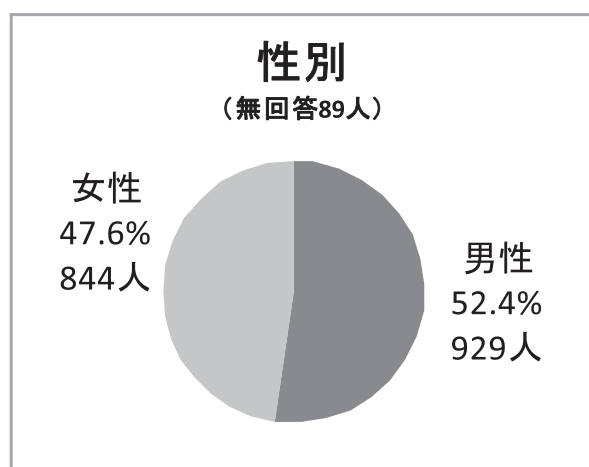


図1 回答者の性別

所属キャンパス・所属部局

Q1～2では所属部局と所属キャンパスを聞いているが、その結果をまとめたものが次の図2・図3である。その結果、医学部・附属病院（Q2の4）が最も多く、44.2%（779人）と半数近くを占めている。次に工学部26.8%（472人）、事務局等（Q2の9事務局・小白川事務局等と7基盤教育院）が8.0%（141人）となっている。医学部・附属病院には、職員の在籍人数が多く、回収率も他の部局よりも高いため、工学部は大学院生の在籍者が多いため、事務局等は回収率が高いため、これらの部局からの回答者数が多かったと考えられる。

山形大学は、山形市3つ、米沢市1つ、鶴岡市1つにキャンパスが分散している。山形市にある3つのキャンパスのうち小白川キャンパスには人文学部、地域教育文化学部、理学部、また事務局等がある。また飯田キャンパスには医学部、附属病院、附属特別支援学校等がある。松波キャンパスには附属幼稚園、小学校、中学校がある。米沢市の米沢キャンパスには、工学部等がある。鶴岡市の鶴岡キャンパスには農学部等がある。

キャンパス別の回答者の分布では、医学部、附属病院がある飯田キャンパスが45.2%（797人）となっており、米沢キャンパスが27.4%（483人）、小白川キャンパスが19.9%（351人）、鶴岡キャンパスが5.8%（102人）、松波キャンパスが1.8%（31人）と続く。

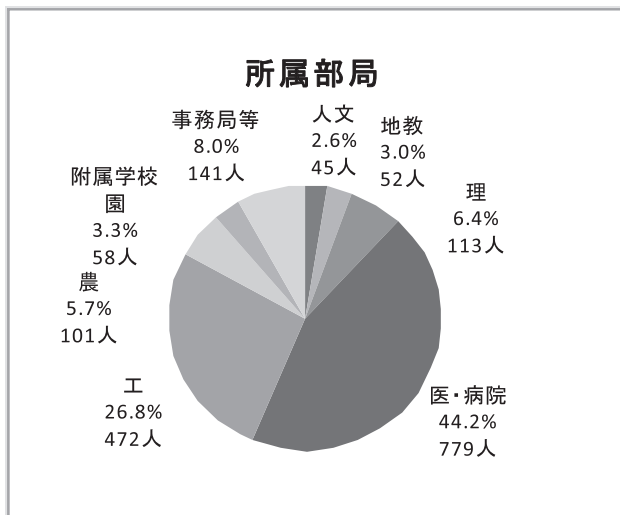


図 2 回答者の所属部局

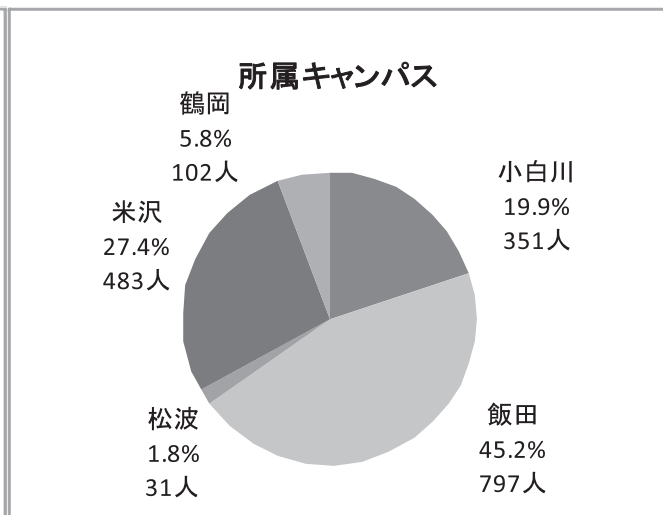


図 3 回答者の所属キャンパス

回答者全体では、男女の割合は半々であったが、キャンパス別に男女の割合を示したのが図 4 である(性別無回答の人は除く)。飯田キャンパスでは 68.1%と女性が 7 割近くを占める。松波キャンパス(51.6%)、小白川キャンパス(41.6%)ではほぼ半数である。一方、農学部のある鶴岡キャンパスでは 29.4%、工学部のある米沢キャンパスでは、21.7%と女性の回答者が少なく、キャンパスによってばらつきがある。

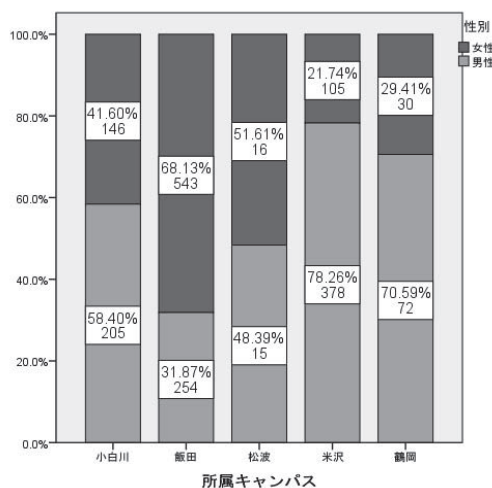


図 4 キャンパス別の男女数

職種 4 分類

Q3 (1) では、大学院生に対して修士課程か博士課程か、教職員に対しては職種を、計 12 分類で聞いている。12 種類ではカテゴリーが多く分析や結果の提示が複雑になるので、「大学院生」、「大学教員」、「医療系」、「職員」の 4 分類にまとめた。

「大学院生」は Q3 (1) で 1~3 と答えた修士課程及び博士課程の大学院生である。「大学教員」は大学教員と研究員をあわせたカテゴリーである。「医療系」は医療職員、医員・研修医をまとめたカテゴリー

一である。また、「職員」は上記に含めなかった全ての職種をまとめたものである。具体的には事務系職員、教室系技術職員・教務職員、技能系職員、附属学校園教員、その他の人を「職員」としている。

以下の分析で単に職種という際には、12分類ではなく、この4分類の職種を指すこととする。

その4分類の分布をまとめたのが図5である。この4分類の回答者はほぼ同じ割合であり、「職員」が29.0%（534人）、「大学院生」が26.7%（492人）、「医療系」が26.3%（484人）、「大学教員」が18.1%（333人）となっている。

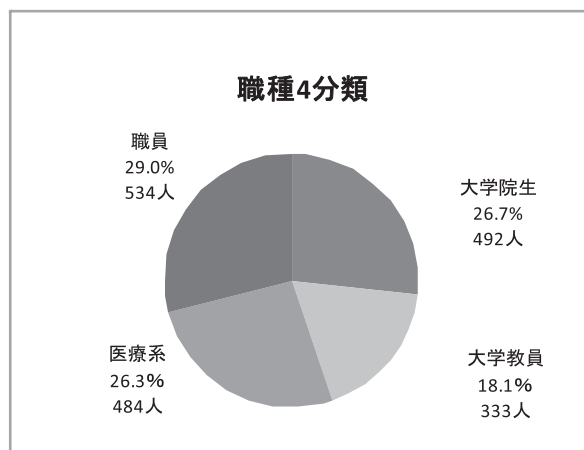


図5 回答者の職種

次に、この4つの職種別に男女の割合を示した（性別無回答は除く）のが、図6である。大学院生と大学教員では男性が多く、医療系と職員では女性が多い。女性の割合は、大学院生では22.2%（104人）、大学教員では16.2%（51人）であるが、医療系では、82.4%（384人）、職員では、58.1%（297人）と半数以上を女性が占めている。

参考として、平成22年12月1日現在に在籍する山形大学の大学教員数は846人であり、女性は112人で13.2%である。アンケートに回答してくれた大学教員では、女性が16.2%を占めるため、昨年度も同様の傾向がみられたが、女性教員の方が男性教員よりも調査に協力的であったと考えられる。

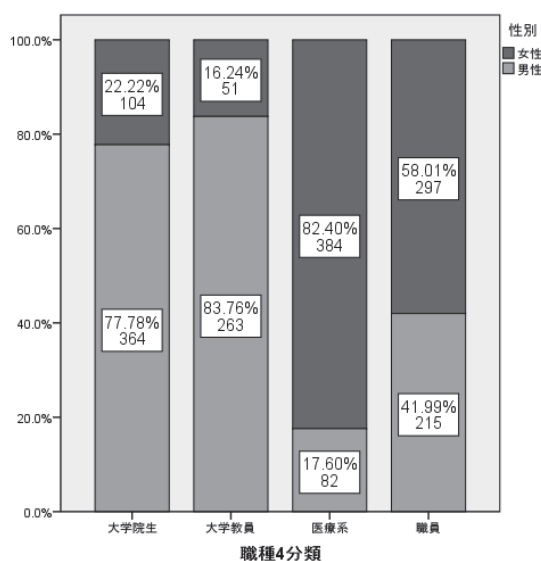


図6 職種別の男女数

大学院生

職種 4 分類では、「大学院生」が 4 分の 1 強を占めていたが、修士、博士という課程別にみるとどうだろうか。課程別に人数をまとめたのが図 7 である。その結果、修士課程（修士または博士前期課程）が大半の 87.2%（429 人）を占め、博士課程（博士または博士後期課程）とその他の学生の合計は、1 割強を占めるに過ぎない。そのため、今回のアンケートの分析で大学院生という場合は、多くは修士課程の大学院生の実態や意見を反映している点を留意願いたい。

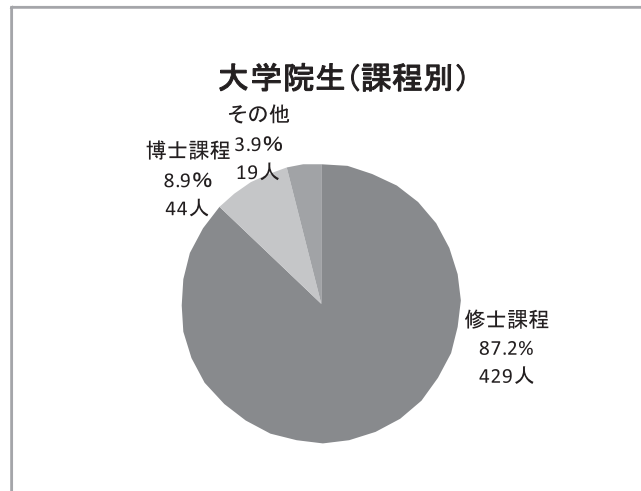


図 7 課程別の大学院生数

さらに、大学院生の課程別の男女の割合を示したのが図 8 であるが、修士課程、博士課程どちらにおいても、男性が 8 割弱を占めている。修士課程では 77.8%（318 人）、博士課程でも 78.1%（32 人）と男性が大半を占め、女性は 2 割程度となっている。

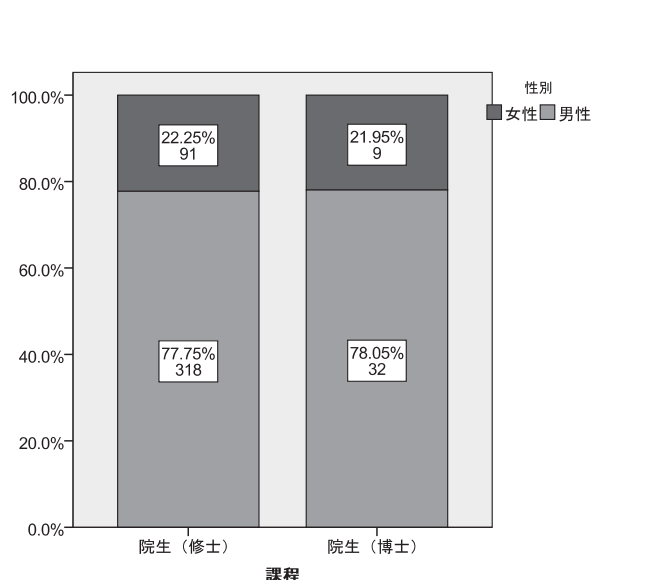


図 8 課程別の男女数

また、大学院生を所属学部別に見ると、下の表 4 のように、修士課程（博士前期課程）では、工学部

の大学院生が、博士課程（博士後期課程）においては工学部のほか、理・医・農学部のいわゆる理系の大学院生が大半を占めている。具体的には、修士課程では、特に工学部の回答が68.6%（293人）を占めている。一方、博士課程では、工学部が40.5%（17人）、理学部が23.8%（10人）、医・附属病院、農学部と続く。山形大学では人文学部と地域教育文化学部には、修士課程までしかいないため、これらの学部では、博士課程の回答者はゼロとなっている。

表 4 課程・所属学部別の大学院生数

課程	所属学部						合計
	人文	地域教育文化	理	医・附属病院	工	農	
修士課程	12 2.8%	14 3.3%	63 14.8%	10 2.3%	293 68.6%	35 8.2%	427 100%
博士課程	0 0.0%	0 0.0%	10 23.8%	8 19.0%	17 40.5%	7 16.7%	42 100%
合計	12 2.6%	14 3.0%	73 15.6%	18 3.8%	310 66.1%	42 9.0%	469 100%

教職員の勤務形態

Q3 (2) では、教職員について、常勤か、定時勤務か、短時間勤務かなど勤務形態について聞いている。その結果（図 9）、全体の約 4 分の 3、75.4%（951 人）が常勤職員となっている。一方、常勤職員以外の定時勤務職員、短時間勤務職員、その他を合わせると、約 4 分の 1 の 24.6%（310 人）となっている。

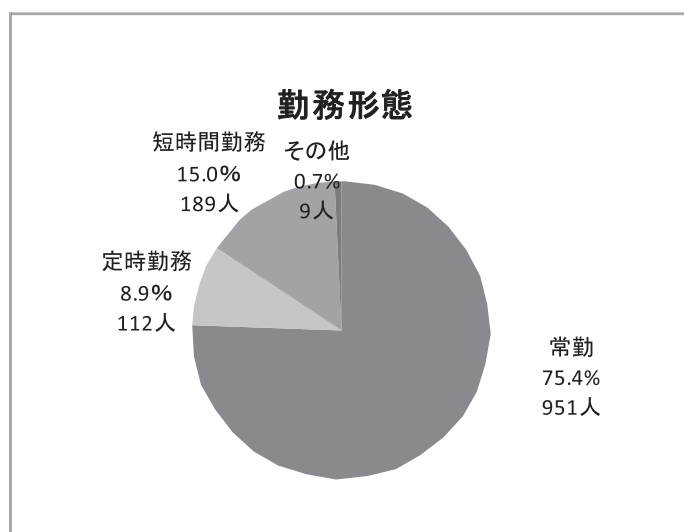


図 9 勤務形態

さらに、男女別に勤務形態の分布をまとめた図 10（勤務形態その他は 9 人のため除く）によると、女性では、短時間勤務職員が 24.2%（170 人）、定時勤務職員が 10.5%（74 人）と、常勤以外の人合わせて 3 割以上いる。一方、男性の短時間勤務職員、定時勤務職員は合わせて 1 割程度となっており、女性には男性に比べ、常勤以外の勤務形態の人が多く分かる。

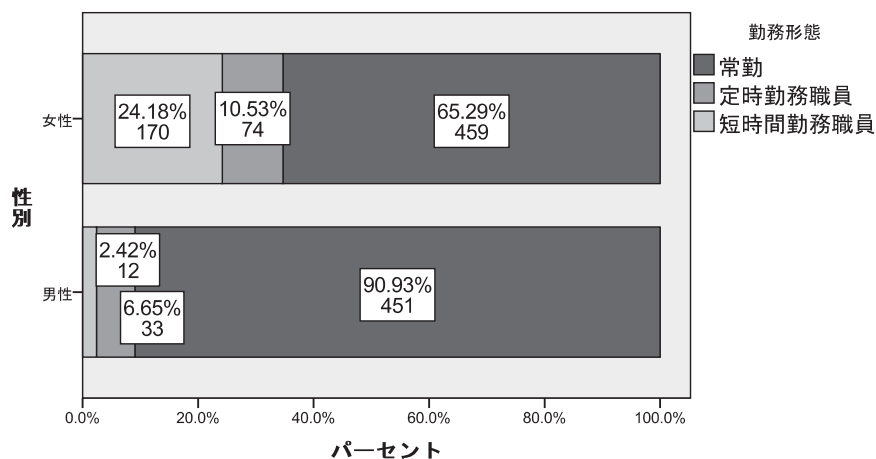


図 10 男女別の勤務形態

世代分布

Q17 では 5 歳刻みで年齢を聞いている。図 11 によると、24 歳以下が 28.2% (515 人) と最も多くを占める。また、25-29 歳という世代も 15.6% (286 人) と比較的多い。それ以上の世代ではそれぞれ 7~10%程度とバランス良く回答者が分布している。

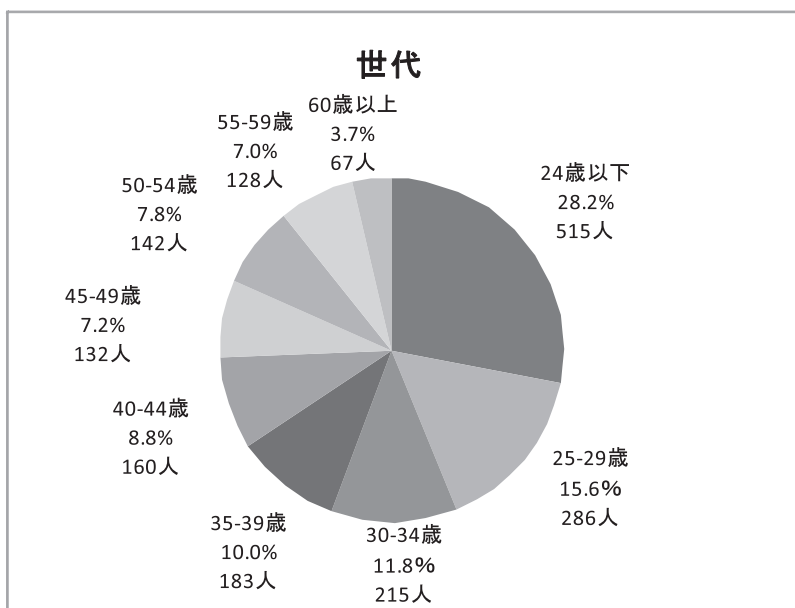


図 11 回答者の世代分布

性別に世代分布を見たのが図 12 である。その結果、男女ともに 24 歳以下、25-29 歳という若い世代が多いが、特に男性の 24 歳以下が多い。これはこの世代に、男性の大学院生が多くいるためであろう。

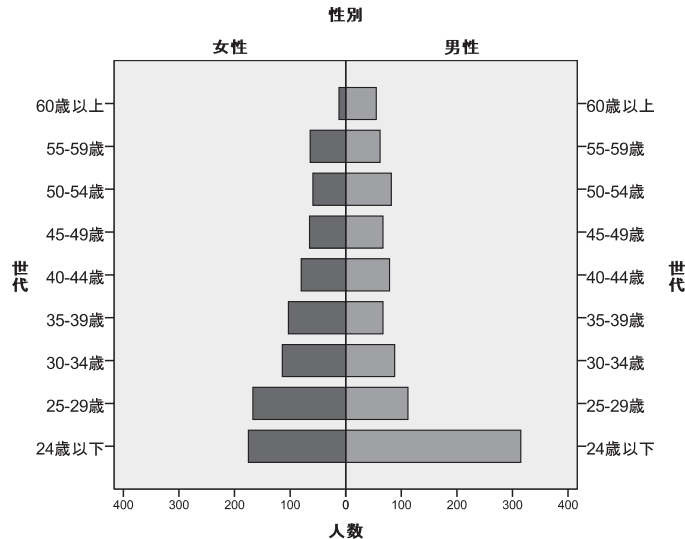


図 12 男女別の世代分布

ただし、世代分布は、大学院生か職員か、また職員でも職種によって異なるため、職種 4 分類ごとに世代分布を見たのが次の 4 つの図である。図を見る際には、職種によって回答者数が異なり、軸の数が違うので注意してほしい。

その結果、大学院生（図 13）では、24 歳以下の世代が大半を占めている。特にこの世代の男性が大半を占めていることがわかる。

大学教員（図 14）では、男性の回答者が多く、40歳以上の男性の回答が多い。

医療系（図 15）では、看護師に女性が多いことから、女性の回答が非常に多い。また、25-29 歳をピークに 24 歳以下、30-34 歳という若い世代の女性が多いことが分かる。

職員（図 16）では、他の職種よりは男女バランス良く回答者が分布しているが、25 歳から 39 歳では比較的女性の回答者が多い。

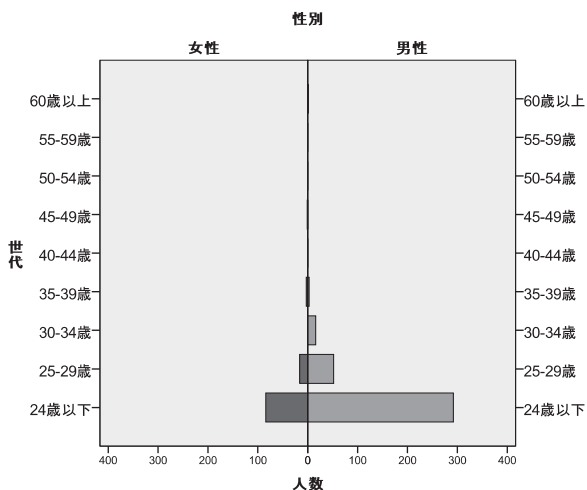


図 13 男女別の世代分布（大学院生）

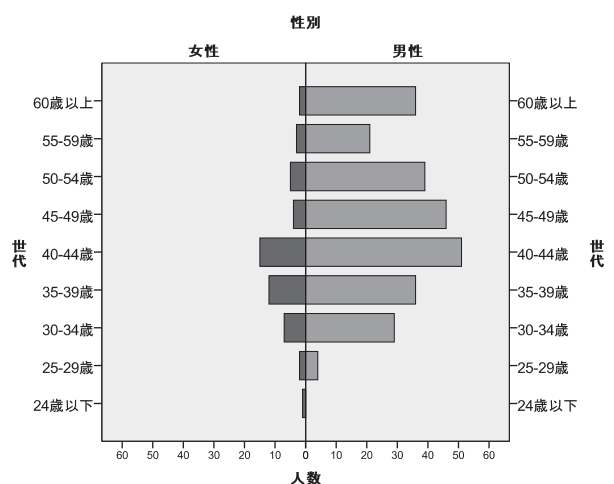


図 14 男女別の世代分布（大学教員）

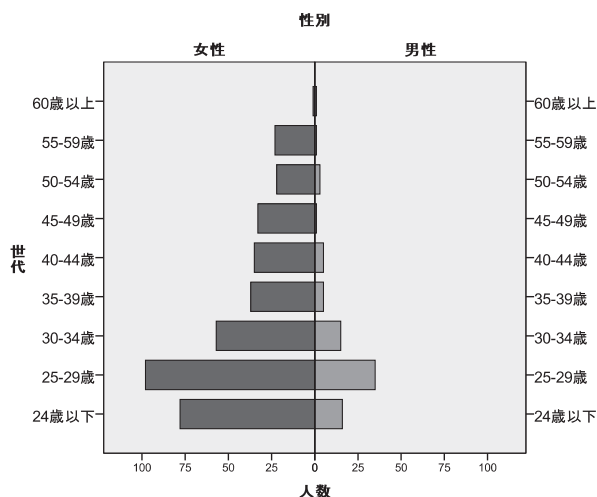


図 15 男女別の世代分布（医療系）

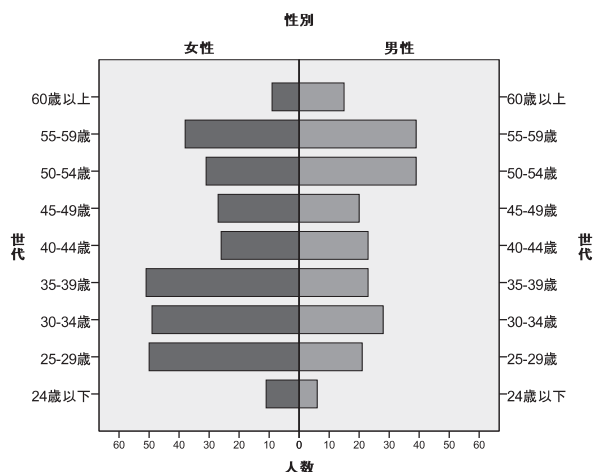


図 16 男女別の世代分布（職員）

Q17 では 5 歳刻みの世代を聞いているが、平均年齢を求めるためや以下の分析で使用するために、世代から年齢に変換した。変換方法としては、それぞれの世代の中央の値をとって変換した（24 歳以下=22 歳、25-29 歳=27 歳、30-34 歳=32 歳、35-39 歳=37 歳、40-44 歳=42 歳、45-49 歳=47 歳、50-54 歳=52 歳、55-59 歳=57 歳、60 歳以上=62 歳）。

職種また性別に年齢の平均値等を求めたのが以下の表 5 であり、平均値を図にしたのが図 17 である。全体では平均年齢が 35.3 歳（n=1828）となり、男性は 35.5 歳（n=927）、女性は 35.4 歳（n=839）である。職種別では、大学院生が当然ながら若く、平均 23.4 歳、続いて医療系が 33.4 歳となっている。職員と大学教員では平均年齢は高く、職員で 41.8 歳、大学教員では 45.2 歳となっている。なお、それぞれの職種の中で、男女の年齢の平均値では大きな差は見られない。

表 5 年齢の平均値・中央値

	平均値	中央値	標準偏差
回答者全体	35.3	32.0	12.5
男性	35.5	32.0	11.5
女性	35.4	32.0	13.5
大学院生(男女計)	23.4	22.0	3.5
大学院生(男性)	23.4	22.0	3.5
大学院生(女性)	23.4	22.0	3.8
大学教員(男女計)	45.2	42.0	9.7
大学教員(男性)	46.3	47.0	9.6
大学教員(女性)	41.2	42.0	8.8
医療系(男女計)	33.4	32.0	10.5
医療系(男性)	30.4	27.0	8.5
医療系(女性)	34.1	32.0	10.8
職員(男女計)	41.8	42.0	11.5
職員(男性)	44.6	42.0	11.5
職員(女性)	40.2	37.0	11.2

図 17 年齢の平均値（職種・性別）

